

高齢者福祉施設における記録蓄積と 活用についての一考察

——事例集の語彙を対象とした分析——

似 内 寛

1. はじめに

本稿の目的は、高齢者福祉施設における個々の記録を、検索と分類により活用する方法について考察することである。類似している事例を検索することは、蓄積された問題への対処のノウハウを継承し新たなケアに活かすことにつながる。また記録の類似性による分類は、これから起こる可能性のある問題状況や、気づいていない問題状況へ注意を喚起する参考資料として活用できる。

本研究では文書に含まれる単語の出現頻度を求め、記録の特徴を表す単語を抽出する。これらの単語を検索することにより、単なるキーワード検索よりも、キーワードが文書の特徴となっている可能性の高い記録を検索することが可能になる。

さらに単語の出現度数より、文書間の相関の強さを求め、相関の強い文書同士にどのような類似点が見られるのかについて考察する。

介護福祉における記録の意義を佐藤は、実践過程の記録により適切な援助を行っているかを確認し、次の実践過程へと進むために活用することであると述べている¹⁾。

またソーシャルワークにとっての記録の目的として岩間²⁾は、援助計画の作成過程の情報収集や援助の過程の記録が、援助チームとの情報共有、サービス内容の検討と改善にとって重要であると述べている²⁾。

記録の活用状況について、横山は特別養護老人ホームの介護職員が記録に割く時間と記録をどのように考えているかについてアンケート調査を行っている。この調査によれば介護職員の認識する記録の重要性として「利用者の個別理解」「介護の一貫性の確保」を半数以上の職員があげている。また記録を何に活用するかについては「情報収集」、「介護の実施」、「介護計画の立案」をやはり半数以上の職員があげている。「記録を介護に活かしているか」という問いに対して6割以上が活かしていると回答している³⁾。この結果から記録活用に対する高齢者施設職員の意識が高いことがわかる。

記録の活用の試みとして酒井は、訪問看護記録の記述をコード化し、問題状況が「導入期」「安定期」で統計的に有意な差をもって表れるかについて分析を行っている⁴⁾。この研究では記録を

集計に活用するために、記録項目にコードを付与し、同じコードを付与された記録の数を集計することにより分析を行っている。

このように介護、看護の現場における記録についての先行研究において、記録活用の重要性は述べられており、活用的手段として記録内容の特徴を分類するという手法をとるものも見られる。本研究では過去の記録を有効活用し、現在取り組んでいる事例への有効な情報を得ることを目的とし、記録内容を端的に示すために、記録に含まれる単語の活用を検討する。具体的な作業として、白澤政和編著『ケアマネージャーのためのステップアップ事例集』⁵⁾に記載されている18の事例を用い、事例ごとに含まれる単語の出現頻度を求めた。この事例集では事例一つ一つに番号と、何を説明するための事例であるかを示すタイトルがつけられている。著者によりつけられたこれらの番号を、本稿での記録を区別するために使用する。各記録の番号とタイトルは以下の通りである。

- 1-1. 重要事項説明と契約取り交わしの意義
- 2-1. 退院時、今後の生活の場を決定する際の支援
- 3-1. 経済的理由によりサービス利用を制限する人への援助
- 3-2. 従来利用していたサービスが十分に利用できなくなった人への援助
- 4-1. 利用者の退院に向けた会議の開催
- 4-2. 問題解決的要素の強い会議の開催
- 5-1. 疎遠だった親族がキーパーソンになる場合の援助
- 5-2. 本人のニーズと家族の思いとが異なる場合の対応
- 6-1. 痴呆性高齢者への地域福祉権利擁護事業による援助
- 7-1. ケアプランと訪問介護計画
- 7-2. ケアプランと通所介護計画
- 7-3. ケアプランと通所リハビリテーション計画
- 8-1. 介護支援専門員に対する苦情への対応
- 8-2. サービス提供（訪問介護）に対する苦情への対応
- 9-1. 信頼関係を深める中で真のニーズを形作る援助
- 9-2. 新たなニーズを引き出し、ケアプランを見直す援助
- 10-1. 作成したケアプランに対する評価
- 10-2. 介護者に介護の自信を持たせる評価

2. 単語の出現頻度の求め方と分類方法について

文書から単語の出現頻度は、下記の手順で求めた。

- (1) 文書をテキストデータとして保存
- (2) テキストデータを形態素に分解
- (3) 集計することに意味のない頻出単語の除去
- (4) 単語の出現頻度の集計

また出現頻度を用いた文書間の類似度とグルーピングは下記の方法をとった。

- (5) どの文書にも現れる単語の影響力を小さくするための、出現度数への重み付け
- (6) 文書ごとの単語の総数に違いがあるため、出現度数のZ得点化
- (7) SPSSを用いた、階層的クラスタ分析

(2)の形態素の抽出にはmecabを使用した。mecabは「京都大学情報学研究科、日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所共同研究ユニットプロジェクトを通じて開発されたオープンソース形態素解析エンジン」である⁶⁾。具体的にはテキストファイルに含まれる文章を適当な長さで改行し、mecabを使用して形態素に分解し、データベースに登録した。この過程で(3)として助詞、接尾語、助動詞、記号として分類された単語はデータベースへの記録を行わないようにした。登録された単語の種類は2,747種類である。(4)の集計はデータベースで行った。なおデータベースはMicrosoft Access 2007を使用した。

(5)は、[文書の内容と関連する単語]と、[どんな分野にも現れやすい一般的な語]で前者の重みを重く、後者を軽くするための処理である。この処理にはTF*IDFという方法を用いた⁷⁾。これは[全文書数 N を、重み付けをする単語を含む文書数 n で割った値に対数をとったもの]を単語の出現頻度に掛ける処理である。具体的には「処理する単語の出現頻度 $\times \log(N/n)$ 」という式で表される。

(7)の階層的クラスタ分析は、個体間の距離をピアソンの相関係数とし、距離の測定方法を最近隣法、最遠隣法、グループ間平均連結法、グループ内平均連結法、重心法のそれぞれを試し、もっとも顕著にグループ分けすることができた最遠隣法による結果を考察の対象とした。なお(6)のZ得点化はSPSSの階層クラスタ分析の標準化オプションを用いた。

3. 分析結果

3-1. 単語の出現頻度について

表1は、『ケアマネージャーのためのステップアップ事例集』（以下「事例集」）の中で、事例として紹介されている記録に出現する単語の中で、数の多いものを抜き出した表である。

それぞれの事例の特徴的なキーワードとなっている。

表1 頻出する単語 (表中の数値は、「処理する単語の出現頻度×log(全文書数/単語の含む文書数)」)

1-1		2-1		3-1		3-2		4-1	
弟	5.7	シルバー	12.6	紙おむつ	9.5	息子	6.2	カテーテル	6.3
タイプ	4.8	長男	9.5	キャンセル	5.0	兄妹	5.0	バルーン	6.3
契約	4.1	歩く	8.8	妻	4.9	長男	4.6	長男	6.0
出血	3.8	カー	8.6	隔週	3.8	限度	3.9	おむつ	5.6
送れる	3.8	随時	6.7	三男	3.8	子	3.8	ミキサー	5.0
制度	3.4	入所	6.2	配	3.3	ふん	3.8	会議	4.8
事項	2.9	ベッド	5.7	水曜日	2.5	酪農	3.8	交換	4.5
けっして	2.9	出向く	5.7	イライラ	2.5	支給	3.3	総合	3.9
伴う	2.8	パー	5.0	下旬	2.5	万	3.3	開催	3.9
納得	2.6	車輪	5.0	不調	2.5	農業	3.1	医学	3.9
4-2		5-1		5-2		6-1		7-1	
会議	4.8	姪	30.13	クリニック	8.8	権利	10.9	服薬	13.5
出席	4.8	老健	8.59	リハビリ	4.3	擁護	7.8	糖尿	9.1
次男	4.7	アパート	6.68	金	3.8	視力	6.3	足	9.1
手術	2.9	観察	6.68	移乗	3.3	通帳	6.3	クリーム	8.8
暫定	2.9	ホーム	6.28	思い	3.3	受給	5.0	浮腫	8.8
主治医	2.8	適宜	6.23	ポータブル	3.3	侵害	5.0	瘡	7.8
総合	2.6	弟	5.73	性格	3.3	保護	4.8	褥	7.8
開催	2.6	脱水	5.02	夫	3.2	金額	4.7	項目	7.6
シャンプー	2.5	便秘	5.02	出かける	3.1	民生	4.6	清	6.7
バイパス	2.5	親族	4.77	立場	3.1	委員	4.6	全身	6.7
7-2		7-3		8-1		8-2		9-1	
次男	6.23	プログラム	7.6	次女	9.5	次女	20.0	銭湯	6.23
四	5.73	右	5.9	処置	4.8	四肢	5.0	右腕	5.02
書類	4.77	リハビリ	5.4	筆者	4.8	クレーム	3.8	転居	3.77
妻	4.58	設定	4.8	瘡	4.7	拘る	2.9	洗濯	3.34
測定	3.77	訓練	4.5	褥	4.7	縮	2.9	全身	2.86
排尿	2.86	脳	3.9	所属	3.8	嚙下	2.9	アパート	2.86
後始末	2.86	骨折	3.8	マネジメント	3.3	寄せる	2.5	事情	2.86
長男	2.82	方針	3.8	複数	2.9	交替	2.5	食品	2.86
体調	2.78	ゴール	3.8	きちんと	2.9	改善	2.5	疾病	2.86
民生	2.61	過剰	3.8	施行	2.9	苦情	2.3	医者	2.51
9-2		10-1		10-2					
訪問	25	達成	15.1	施設	3.8				
家族	24	一部	10.5	リハビリ	3.3				
介護	22	充足	8.6	自信	2.9				
本人	17	確実	7.8	チーム	2.9				
サービス	15	評価	6.7	所内	2.9				
希望	12	拡大	6.7	入所	2.8				
長女	11	その他	6.5	かたわら	2.5				
援助	11	長男	5.6	やや	2.5				
痴呆	10	簡易	5.0	通所	9				
利用	10	続く	4.6	事業	9				

表2 記録中に登場する家族を示す単語

	妻	夫	長男	次男	三男	息子	長女	次女	弟	姪
1-1									○	
2-1			○							
3-1	○				○					
3-2			○			○				
4-1			○							
4-2				○						
5-1									○	○
5-2		○								
7-2	○		○	○						
8-1								○		
8-2								○		
9-2							○			
10-1			○							

記録ごとに出現回数の多い単語は異なっているが、例えば「長男」は2-1、3-2、4-1、7-2、10-1に出現回数が多く、「妻」は3-1と7-2に出現回数が多い。「長男」と「妻」の両方が頻出している記録を探すと7-2ということとなる。これらのキーワードは、文書中に頻出のものであるため、文書の内容と強く関わる単語であると考えられる。表2は記録中の頻出度の高い単語で、家族に関係したものを抜き出した表である。記録に登場する家族の組み合わせが異なり特徴的である。このように頻出するいくつかの単語を、文書の特徴としてのキーワード「タグ」として付与することで、蓄積された情報の検索、参照などといった利用の可能性が高くなると考えられる。

3-2. クラスタ分析によるグループ化について

次にクラスタ分析を用いた文書のグループ化について述べる。グループ化には階層クラスタ分析を用いたが、測定間隔としてピアソンの相関係数を用い、クラスタ化の方法は「最遠隣法」を指定した。表3は文書間の相関による距離行列である。

クラスタ分析の結果図1のデンドログラムが得られた。「Rescaled Distance Cluster Combine」が23の部分でクラスタ数を確定するとグループ1「7-1、8-1、8-2、10-1」、グループ2「5-1、9-1、9-2」、グループ3「1-1、6-1」、グループ4「2-1、7-3、10-2」、グループ5「3-1、3-2、4-1、4-2、5-2、7-2」の5つのグループに分けることが出来る。

各グループ内の文書の相関係数はあまり高くないが、グループ内には共通する単語が多数見られる。グループごとに共通する頻出語の数を、表4-1から4-5にまとめた。これらの表より第1グループは「とおり、提供、変更、機能、連携、居宅、ニーズ、介助」、第2グループは「銭湯、施設、ひとり、近く、心配、場合、入院」、第3グループは、「権利、擁護、保護、契約、視点、

表3 ベクトルの値間の相関

	1-1	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	6-1
1-1	1.00	-0.04	-0.02	-0.01	-0.04	0.00	0.02	0.00	0.02
2-1	-0.04	1.00	0.06	0.05	0.09	0.03	0.02	0.04	-0.04
3-1	-0.02	0.06	1.00	0.08	0.03	0.01	-0.01	0.03	-0.02
3-2	-0.01	0.05	0.08	1.00	0.04	0.02	0.01	0.02	-0.04
4-1	-0.04	0.09	0.03	0.04	1.00	0.17	-0.03	0.00	-0.04
4-2	0.00	0.03	0.01	0.02	0.17	1.00	-0.02	0.02	-0.03
5-1	0.02	0.02	-0.01	0.01	-0.03	-0.02	1.00	-0.01	-0.01
5-2	0.00	0.04	0.03	0.02	0.00	0.02	-0.01	1.00	-0.02
6-1	0.02	-0.04	-0.02	-0.04	-0.04	-0.03	-0.01	-0.02	1.00
7-1	-0.03	-0.01	0.00	-0.04	0.03	-0.03	-0.03	-0.02	0.00
7-2	-0.01	0.05	0.04	0.01	0.05	0.08	0.00	0.02	0.02
7-3	-0.02	0.07	0.02	-0.03	0.01	0.00	-0.02	0.02	-0.05
8-1	0.00	-0.02	-0.01	-0.03	0.04	0.03	-0.01	-0.01	-0.02
8-2	-0.02	0.00	0.00	-0.03	0.00	-0.01	-0.01	0.01	-0.02
9-1	-0.06	-0.03	-0.04	-0.03	-0.04	-0.02	0.01	-0.02	-0.02
9-2	-0.01	0.02	0.02	0.00	-0.01	0.03	0.04	0.01	-0.02
10-1	-0.04	0.05	0.01	0.02	0.01	0.00	-0.01	-0.01	-0.03
10-2	-0.03	0.05	0.02	0.00	-0.01	0.00	0.01	0.05	-0.01

	7-1	7-2	7-3	8-1	8-2	9-1	9-2	10-1	10-2
1-1	-0.03	-0.01	-0.02	0.00	-0.02	-0.06	-0.01	-0.04	-0.03
2-1	-0.01	0.05	0.07	-0.02	0.00	-0.03	0.02	0.05	0.05
3-1	0.00	0.04	0.02	-0.01	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.02
3-2	-0.04	0.01	-0.03	-0.03	-0.03	-0.03	0.00	0.02	0.00
4-1	0.03	0.05	0.01	0.04	0.00	-0.04	-0.01	0.01	-0.01
4-2	-0.03	0.08	0.00	0.03	-0.01	-0.02	0.03	0.00	0.00
5-1	-0.03	0.00	-0.02	-0.01	-0.01	0.01	0.04	-0.01	0.01
5-2	-0.02	0.02	0.02	-0.01	0.01	-0.02	0.01	-0.01	0.05
6-1	0.00	0.02	-0.05	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03	-0.01
7-1	1.00	0.05	0.01	0.06	-0.01	0.01	0.00	0.04	-0.05
7-2	0.05	1.00	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.00	0.03	0.00
7-3	0.01	-0.01	1.00	-0.03	0.02	-0.04	-0.03	0.01	0.07
8-1	0.06	-0.01	-0.03	1.00	0.32	-0.02	0.01	0.03	0.03
8-2	-0.01	-0.01	0.02	0.32	1.00	-0.01	0.00	-0.01	-0.01
9-1	0.01	0.00	-0.04	-0.02	-0.01	1.00	0.10	-0.03	-0.02
9-2	0.00	0.00	-0.03	0.01	0.00	0.10	1.00	0.01	0.02
10-1	0.04	0.03	0.01	0.03	-0.01	-0.03	0.01	1.00	0.04
10-2	-0.05	0.00	0.07	0.03	-0.01	-0.02	0.02	0.04	1.00

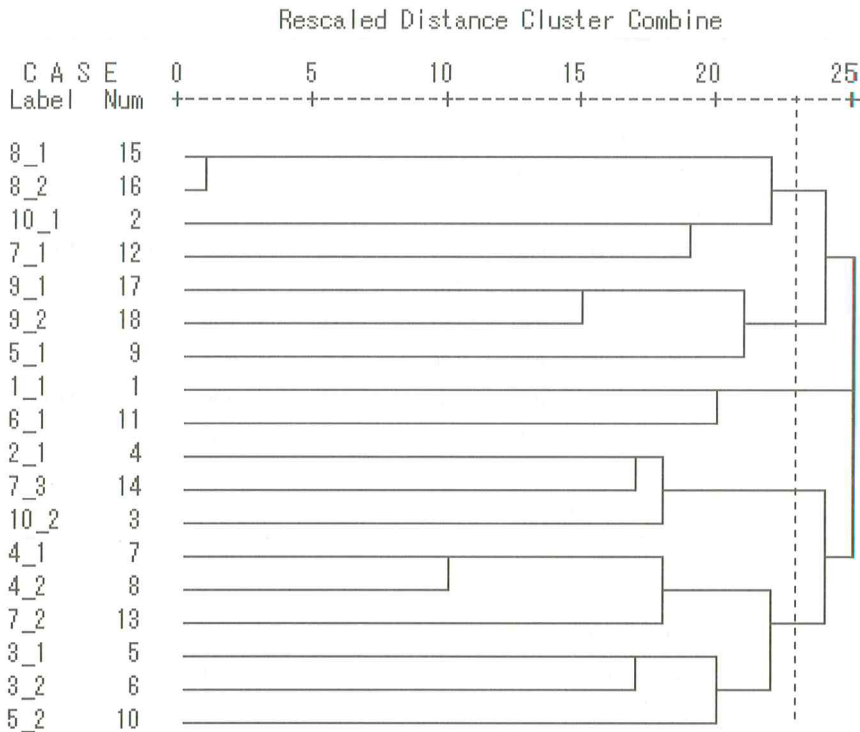


図1 デンドログラム

尊重, 設置, 手すり, 日常], 第4グループは「リハビリ, 入所, 右, 妻, 訓練, 退院, 入院, 療法, 麻痺, 機能, 参加, 通所, 歩行, 発症, 安定」, 第5グループは「妻, 負担, 夫, 受ける」というキーワードで特徴付けられる。

これらの表は出現数トップ10の単語を抽出して作表しているため, これらの表に掲載していないグループ内で共通するすべての語数は大変多い。例えば第1グループの4つの文書全てに共通するもので48ある⁸⁾。また第1グループから最も遠い, 第5グループでは29語がグループ内の文書に共通している⁹⁾。第1グループの文書に全て出現する48の単語と, 第5グループの6つの文書に共通の29語で共通する単語は無い。このようにグループ内で共通に出現する単語が複数ある一方, グループ間では頻出単語が共通していないことから, グループに分類された文書は何らかの類似の特徴をもった事例であると考えられる。

そこで各グループに含まれる記録の内容と照らし合わせると, 第1グループは「居宅」「介助」「訪問」等が共通しているグループである。これらの事例は居宅サービスに関する内容となっている。

第2グループは「ひとり」「銭湯」「金銭」等が共通している。これらの事例の利用者は共通して一人暮らしで, 入院経験があり, 「銭湯」を利用して, 金銭の管理などが記録中に取り上

表4-1 第1グループ 共通する頻出語数

	7-1	8-1	8-2	10-1	計
とおり	2.78	0.56	0.56	1.11	5.01
提供	2.57	1.92	0.21	0.21	4.92
変更	1.84	0.42	0.14	2.26	4.66
機能	0.90	1.20	1.20	0.90	4.21
連携	2.05	0.82	0.41	0.82	4.10
居宅	1.94	0.53	0.70	0.70	3.87
ニーズ	0.88	0.18	0.18	2.64	3.87
介助	2.15	0.26	0.26	0.20	2.86
応じる	0.48	0.95	0.48	0.48	2.39
訪問	0.94	0.15	0.82	0.47	2.38

表4-2 第2グループ 共通する頻出語数

	5-1	9-1	9-2	計
銭湯	3.11	6.23	4.67	14.01
施設	2.81	0.51	2.30	5.62
ひとり	3.28	0.41	0.82	4.51
近く	1.43	0.95	1.43	3.82
心配	0.82	0.82	2.05	3.69
場合	1.71	0.43	1.07	3.21
入院	1.79	1.02	0.26	3.06
金銭	0.56	1.11	1.11	2.78
近隣	0.26	0.26	2.04	2.55
どう	2.04	0.26	0.26	2.55

表4-3 第3グループ 共通する頻出語数

	1-1	6-1	計
権利	1.56	10.89	12.45
擁護	0.78	7.78	8.56
保護	0.95	4.77	5.73
契約	4.10	0.41	4.51
視点	0.56	3.34	3.89
尊重	0.78	3.11	3.89
設置	2.05	1.64	3.69
手すり	1.67	1.67	3.34
日常	1.06	2.11	3.17
地域	0.43	2.57	2.99

表4-4 第4グループ 共通する頻出語数

	2-1	7-3	10-2	計
リハビリ	2.30	5.36	3.32	10.98
入所	6.20	0.43	2.78	9.41
右	1.31	5.88	1.31	8.49
妻	4.58	2.29	1.58	8.45
訓練	1.23	4.51	1.64	7.38
退院	4.93	1.06	1.06	7.04
入院	2.30	1.28	1.79	5.36
療法	1.96	1.96	0.65	4.57
麻痺	1.64	1.64	0.82	4.10
機能	2.11	0.30	1.51	3.91

表4-5 第5グループ 共通する頻出語数

	3-1	3-2	4-1	4-2	5-2	7-2	計
妻	4.93	0.53	1.76	0.35	1.23	4.58	13.38
負担	1.27	1.98	0.71	0.57	1.70	0.57	6.78
夫	0.33	0.11	0.11	1.86	3.17	0.22	5.78
受ける	0.33	0.22	0.98	0.22	1.20	0.11	3.06
軽減	0.35	0.53	0.18	0.18	0.88	0.18	2.29
日	0.71	0.28	0.57	0.28	0.14	0.14	2.12
訪問	0.32	0.07	0.50	0.55	0.37	0.17	1.99
家	0.14	0.14	0.28	0.57	0.28	0.28	1.70
多い	0.11	0.11	0.22	0.33	0.22	0.55	1.53
平成	0.48	0.48	0.24	0.08	0.08	0.08	1.43

※表中の数値は、「処理する単語の出現頻度×log(全文書数/単語の含む文書数)」

げられている。

第3グループは相関係数がとても低く、頻出する語で共通するものが少ないが「権利」「手すり」「設置」等が共通している。これらの事例では利用者の権利擁護について記述があり、また手すり設置などの住宅改修に関する内容が含まれている。

第4グループは「リハビリ」「訓練」「入院」等が共通しているグループである。これらの事例の利用者は入院経験があり、リハビリに通い機能訓練を行っている。

第5グループは「妻」「負担」等が共通しているグループである。しかしこのグループでは「妻」が「介護者」として記述されている場合と、「利用者」として記述されている場合がある。また介護者として記録に登場する「妻」も、記録によって「利用者の妻」と「長男の妻」があり、同じ単語であるが利用者との関係が異なる。さらに「負担」という単語も「介護者の負担」を示している場合と、「費用負担」を示している場合がある。このグループは、出現する単語が記録によって異なる意味合いで用いられているために、共通の単語は出現しているが、意味的に共通しないグループとなってしまう。

4. 考察とまとめ

高齢者福祉施設において蓄積されている記録文書を、有効に活用するための考察として、頻出語の集計と、その結果を利用した記録文書の特徴を示す単語の抽出、クラスター分析を使用したグループ化を検討した。グループ化された文書間では、グループごとに共通する単語にある程度の特徴が見られた。このことから同じような語彙を多用しているという意味で、類似の事例を参照するために役に立つと考えられる。ただし第5グループのように、同じ単語が異なる意味で用いられている場合に区別することができず、その単語が頻出する場合には内容が類似しない文書をグループ化してしまう。この問題に対処するため、福祉の記録に使用される単語の中で、複数の意味を持つ単語や、前後に接続される単語により意味する実体が異なる単語について、さらに多くの記録を分析することが必要である。

またこのグループ化は、今回分析対象とした「事例集」の著者が章ごとに配置した事例のグループと一致していない。今回の使用した文書番号は「事例集」の章と節の番号を使用している。グループごとの文書番号から「事例集」の一致している部分のみをみると、第1グループに8-1, 8-2が、第2グループに9-1, 9-2が、第5グループに、3-1, 3-2と4-1, 4-2が含まれている点は、「事例集」の著者の分類と一致しているが、その他のグループは一致していない。例えば第4グループは2-1, 7-1, 10-2であるが、「事例集」の著者は2章に「ケース目標の設定」、7章に「個別援助計画との関連性」、10章に「評価の方法」という、異なった主旨のタイトルをつけ分類している。このようにいくつかの文書を、意図を持って分類した場合と、単語の出現頻度だけを頼りに行う分類では結果が異なる。このことから確認できるのは、この方法による記録の分類は「出

現頻度の高い単語が似ている」という特徴しか持たないということである。したがって人間が解釈を加えて分類する結果と同じように用いることは、当然であるが出来ない。単語の出現頻度を用いた分析は、蓄積された数多くの事例の中から類似事例を抽出することにのみ使用するものであり、それを何らかの解釈済みの分類として用いることを提案するものではない。このことは重要な注意点である。

注

- 1) 佐藤豊道『介護福祉のための記録 15 講』中央法規出版 1998 pp.4-5
- 2) 岩間文雄編著『ソーシャルワーク記録の研究と実際』相川書房 2006 p.2
- 3) 横山正博「特別養護老人ホームの介護職員の記録に対する姿勢と意識」, 山口県立大学『山口県立大学社会福祉学部紀要』第6号 2000 pp.87-93
- 4) 酒井昌子「在宅療養時期の違いによる訪問看護実践の特徴—オマハシステムを用いた訪問看護記録の分析—」, 聖路加看護大学『聖路加看護学会誌』Vol.6 No.1 2002 pp.1-8
- 5) 白澤政和編著『ケアマネージャーのためのステップアップ事例集』中央法規出版 2002.12
- 6) MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer
URL <http://mecab.sourceforge.net/> 2009
- 7) 新納浩幸著『Rで学ぶクラスタ解析』オーム社 2007 p.47
Satnam Alag 著 堀内孝彦, 真鍋加奈子, 真鍋和久訳『集合知イン・アクション』SoftBank Creative 2009 p.34
- 8) 第1グループに共通する単語は次の通り「とおり, 提供, 変更, 機能, 連携, 居宅, ニーズ, 介助, 応じる, 訪問, 通院, どの, 入れる, および, く, 説明, とれる, 時間, 管理, 健康, 検討, 低下, わかる, 身体, 家族, 多い, 現在, もつ, これ, この, 感じる, もの, やすい, 事業, 月, 行う, 必要, 福祉, 前, とき, 目標, 病歴, 自宅, 希望, いう, ケース, 在宅, 解決」
- 9) 第5グループに共通する単語は次の通り「妻, 負担, 夫, 受ける, 軽減, 日, 訪問, 家, 多い, 平成, 次, 説明, 月, かける, おる, 頻度, 家族, 援助, 種別, 短期, 目標, 長期, 内容, 自宅, 全般, 希望, 解決, とき」